40回地方自治研究全国集会

に集まりました。

0

る。

島根県「くにびきメッセ」 国から2700名の仲間が 央執行委員、長妻中央執行 研究全国集会が島根県の地 4名で参加をしてきまし 委員、黒田中央執行委員の 清掃からは、 で開催がされました。東京 にかけて、 しく笑顔で如何にして創り 一げていくかをテーマに全 10月4日(金)~5日(土) 自らの街づくりを、楽 第40回地方自治 坂部、徳山中 と表彰、講評が行われまし 県本部)が選ばれ、 た。自治研活動部門 ・ト)には、優秀賞として (レポ

改めて

▲多くの参加者でいっぱいの会場

はスタートし、まずは、全 員長の挨拶を皮切りに集会 5本のレポート・論文が寄 治研究センターから計15 自治労 石上中央執行委 地方自 のリベンジを期待したいと 届かず、次回 練馬総支部から、この間の のススメー児童福祉関連職 たが、惜しくも優秀賞には ポートを提出してくれまし 言」(東京都本部) が選ば 直営維持・再直営化の提 場の例から見る給食調理の 究論文部門では、優秀賞に 定と今後の課題」(神奈川 尊重のまちづくり条例』制 区自治研活動をまとめたレ れました。今回、 『川崎市差別のない人権 安くて美味しい直営給食 (2年後)へ 東京清掃 自治研 島根県での開催を、 開催以来となる、2回目の 977年第17回全国自治研 趣向で提起されました。

自治研賞の発表 とろです

せ

国の単組、

県本部、

せられた、

目がお披露目されました。 佐太鼓」より、 域文化振興と青少年の健全 中で、「和太鼓」を通じ地 を中心に活動している、 育成に努めている「さだ須 提起となりました。 合っていくことを全体で確 結び合い、この地から紡ぎ トラクションとして、地元 認し合うことができた基調 続いて、 域同士を結び、 い文化・芸能を創造する オープニングア 人と人を

もある自治研セッションで さらに、初日のメインで 迫力ある演 中で、 日常生活や災害時の役割の レの重要さ、 盲点になり得る貴重

新 その業務の実態や、そこに 汲み取り業務の確立など、 が想定される場所でのトイ や、災害時に一時的な避難 どもたちへのトイレの学習 事業を展開しています。子 あらゆる場面において啓発 別、また、過去の災害現場 えるようになり、 携わる人たちへの職業差 の教訓から「災害時にこそ 尿収集業務が必要」と考 また次世代の 今では、

▲災害時の備えに対し熱い気持ちを語る前田さん 以前にいかに『あそび』と ない。その時に、またそれ や悩み、その先の展望に関 重要であることを確信しま は、何も良いことは生まれ 顔を強張らせてだけいて 取り組む業務の中での課題 世代へと「縦につなげよう」 いう発想と心を持つことが きたことはもとより、日々 して考えたときに、自らの 結び合ったものを欠 毎日を充実にさせる

集業務に携わることから、 田さんについては、し尿収 が毎日使う「トイレ」につ き」をテーマに、 ンが行われました。この前 中心としたトークセッショ いて災害時のトイレ対策を んの三名が登壇し、 准教授の藤井さん、自治労 究科の西村さん、立教大学 東大阪市労働組合の前田さ 課題が価値に変わると 「1%の仕事から考え 働き方研 私たち と、登壇してくれたお三方 きたところです。 な要素であると納得をして は繰り返し、私たちに伝え 何よりも必要で重要である き、職場に持ち帰れる重要 てくれました。これに関し り、発想したりすることが、 いう気持ちをもって考えた むことの中で『あそび』と た。何事にも真剣に取り組 なお話を聞かせてくれまし ては、ものすごく共感がで

> も大事であること。その結 につなげる」ことが、とて

果が自然と大きな結び目に

ができました。

やっぱり自治研活動

いたところで第40回の全国 野を広げる活動に決心がつ

自治研を無事に終えること

▲さだ須佐太鼓

なることだと思います。

とするのではなく、まずは、

「あそび」をもちながら視

自分との同世代である「横

提起を、

自治研集会らし

その後は、

今集会の基調

です。 行われる中、AIに関する 多岐にわたっての分科会が また、二日目に関しては、

とができました。

ら、様々な形式のもと充実 防災・減災計画を考える分 科会へと東京清掃の参加者 考える分科会、LGBTQ +の理解を深める分科会、 分科会、公務職場の魅力を した参加をしてきたところ 人ひとりが分かれなが

重要性を身にしみて感じて したことで、自治研活動の 今回の全国自治研に参加 しとで、 が、当時ウソの自白をした は、決意の中で冒頭、「私 くれました。石川一雄さん 今日まで多くの皆

りと組織づくりを目標に、 快晴のもと28年連続とな 後も笑顔あふれる職場づく る、狭山現地調査を講師1 10月13日 (日)、見事な 13 狭山現地調査2024を開催し じて楽しみましょう! (坂部 貴之)

10

くれたことだと思います。

していただき決意を述べて 名を含む24名(うち初参加 子さんもサプライズ参加を 4名) の参加で開催するこ 同時に、石川一雄さん早智 富士見集会所での開会と 要」されたのが事実であり 偽計・誘導による、ウソの ても衝撃だったことを覚え さんには迷惑をかけてきて 追い詰められたのは石川 することは何もありませ ません」と二度、三度謝罪 自白をあらゆる手法で『強 しまった・・・申し訳あり したことが私にとって、 番つらい、悲しい状況に 取り調べによる、 1963年当時、 石川さんが謝罪 脅迫• 連日

るのが、この狭山現地調査 れたことが一目瞭然でわか になります。 ことは何一つありません。 ら私たちに対して謝罪する 雄さん本人なのです。だか そのようなことから、 そのウソの自白が強要さ

様子、また近隣の状況を

中で、時間の経過や当時

えると、多くの点で矛盾

早智子さんご夫婦

前中には、部落解放同盟都 た、争点となる事項を具体 件の経過と今後の事実調 連の近藤書記長から狭山 実現と再審開始に向

▲石川一雄さん、



▲現地調査の様子

と、強く決意し、私たちに は晴れる、今度は大丈夫!」 のではないかと思います。 が、少しでも整理がついた 訴えてくれました。そのた や自分の中で未解決な部分 れた仲間も、新たな気づき また、複数回参加をしてく めに私たちができること 石川一雄さんは、「冤罪

一触れていただくことがで なる部分についても詳細 だきました。また午後か 午後からの現地調査で の現地調査でのポイント 提起した学習をしてい 法改正に向け取り組みを強 かしていくことです。 をしていきながら世論を動 は、しっかりと石川一雄さ 現と再審開始、そして再審 んと一緒に前を向き、支援 一日も早い事実調べの実

じました。

仲間のみなさん、大変お疲 024』に参加してくれた 化していきましょう。 れさまでした。 『10·13狭山現地調査2

ポイントを歩きます。そ

白を強要させられた内容

実際に自分たちの足で

(坂 部



▲捏造された万年筆